

5 学生の受け入れ

IV. 進捗状況報告

○施策の目標の達成度を測る指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	公開	○	○	%	71.0%	61.8%	59.6%	56.0%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
表	入試形態別入学者数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ15参照
表	学部の社会人・留学生・帰国生徒数	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ表16参照
○基礎的な状況を継続的に観測する指標		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考
指標2	志願者総数	公開	○	○	人	5,870	7,530	7,580	7,472	
指標3	志願者倍率	公開	○	○	倍	9.0	11.6	11.7	11.0	志願者÷入学定員
指標4	入学者に占める近畿圏出身者の比率	公開	○	○	%					近畿圏出身入学者数÷入学者数 (注)出身は出身高校の地域による

注)全学的な視点、個別的な視点について
全学的な視点とは入試部の進捗状況報告シートに表示される項目
個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目

[5.0.1 入学者受け入れ方針]

1. 2006年度入学生より、大学入試センター試験を利用する1月出願と3月出願を導入した。
2. 一般入試(大学入試センター試験を利用する入試を含む)とその他の入試の募集人員の割合を6対4にすることについては2008年度は入学定員680名(法学部と経済学部の連携により30名増)に対して、一般入試の募集人員を382名とし、その割合を56%としている。

[5.0.2 学生募集方法、入学者選抜方法]

1. 2007年度入学生よりスポーツ推薦入試制度を導入し、その2年度目となった。2008年度も、スポーツ推薦入試やAO入試、外国人留学生での入試で新規に入学した学生に対して、懇談会を行ない、その意見や要望などを聞いた。さらに、スポーツ推薦入試で入学した学生の学習状況等の追跡調査を行ない、入試制度の見直しに資することが必要である。ただ、2008年度ではまだ時期が熟していないとの判断をした。

2. 全学の動向に合わせて、2008年度入学生より、経済学部では一般入試に2科目英数型入試、センター併用型(英語)入試を新たに加えた。これも多様な能力をもった学生を受け入れる入試施策の一環と考えた。

[5.0.5 アドミッションズ・オフィス入試]

2006年度入学生よりAO入試制度を導入した。文化・芸術・スポーツ活動・各種団体等におけるリーダーシップ、技術や能力に関する資格、社会貢献活動における実績を評価対象としている。なお、従来の社会人入試、帰国生徒入試もAO入試に含めた。先にも述べたが、入学生の懇談会を行ない、その意見や要望などを聞いた。さらに、AO入試で入学した学生の学習状況等の追跡調査を行ない、入試制度の見直しに資することが必要である。ただ、2008年度ではまだ時期が熟していないとの判断をした。

[5.0.7 入学者選抜における高・大の連携]

高校生に経済学への理解を深めてもらうため、高等学校への出張授業あるいは受験説明会等で、学部情報誌『エコノフォーラム21』の配布を継続的に行なっている。

[5.0.10 外国人留学生の受け入れ]

経済学部では入学試験において外国人留学生の受け入れを継続的に行なっている。また、1995年10月のフランス・リール第一大学経済社会学部との学部間協定の締結によって、これまで学部生、大学院生、教員の交流を行なってきたが、2006年1月に大学間協定に拡大された。今後、交流がさらに盛んになることが期待される。

V. 学内第三者評価

スポーツ能力に優れた学生を含む多様性のある学生の確保を2003年度に設定した目標に置き、その実現に向けての様々な試みがされてきたと認められる。2008年度段階では、入学者選抜方法の多様化(センター試験採用、スポーツ推薦、AO入試、高・大連携、社会人・外国人留学生の受け入れなど)の成果は、時期が熟していないとして、追跡調査結果が示されてはいないが、今後の検証に期待する。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
入試制度改革に対する追跡調査等での検証に期待する。